

発行者 公益社団法人 関西吟詩文化協会

公認 華洲会 (広報紙)

発行責任者 会長 山口華雋
編集責任者 広報部長 山下心鼓



「華」第72号 発行:令和元年5月31日

主な記事

1. 会長挨拶 元年度基本方針
- 2.3. 事業方針 会員の状況
- 4.5. 「会員の広場」
- 6.7. 「青年部のページ」
8. 令和元年度に寄せて

“心ひとつに前進のみ” 令和元年は一般会員増強が命題 会員減少に歯止めをかけ、再び一般会員数400名を目指そう 令和元年度定期総会にて機関決定

平成31年4月30日(火)、大東市立市民会館にて、平成最後の華洲会定期総会が開催された。元号が令和に代わる記念すべき日の設定であった。

総会冒頭、挨拶に立った、山口華雋華洲会会長は、会員減少について会員ひとり一人が努力し会員減少に歯止めをかけ、会員増強に向けての協力を呼び掛けた。



平成30年度は、会員皆の頑張りにも関わらず、世の趨勢で吟界もご多分に漏れず高齢化による自然減、加えて教場の閉鎖等で400名を割って370名になってしまった。内訳は一般会員が338名と幼年会員が32名です。一般会員は24の減で対前年比7.6%のマイナスとなりました。

山口会長は、今年、華洲会創立54年目になり、また元号も平成から令和に、当に記念すべき日の総会に実にタイミングの良い開催となりました。会主三浦華洲先生の意思を継ぎ、次の世代への継承が重要な課題です。会員の皆さんは年々歳を取られます。古い支部、古い教室はどうしても会員数が減って参ります。それらの

教室の指導者を皆さんが継承してもらわなければなりません。

人を育てるといのが私たち幹部の役割です。そういう意味で華洲未来塾を立ち上げて頂いて本年度3年目ということになります。どうしても年を取るのには仕方ありません。

古くなればやめてゆく人が出てきます。会員が減っていつて仕方ありませんと放置するわけにはゆきません。みんなの力で先ず一人がひとりと呼んできてもらおう。詩吟を楽しんでもらおう。と言うことでお願いしたい。未来塾もそうですが、楽しく吟詠をやってもらおう。詩吟ばかりではなくて俳句や和歌や状況によっては吟詠歌謡などもより一層取り組んでまいります。

今までの錬成会から趣向を変えて新年の互礼会という形で皆さんに楽しんでいただく機会を作り、本年度は3年目を迎えます。軌道に乗せ、より多くの会員の参加を期待しています。いま会員を増やして頂ける情熱的な先生方がたくさんおられる。ましてや150人を超える師範代以上の指導資格をお持ちの先生が居られる。この方々に分会をどんどん作っていただきたい。指導すれば吟もうまくなるし仲間が増えて自分に還ってきます。

会の運営は皆さんとぜひ話し合いをして皆さんの合議によって決められたことを皆で守

つてやってみようという形をとってゆきたい。山口会長は先頭に立って会員増強に向けて取り込む決意を宣言した。



平成22年～令和元年の会員数推移

年次	一般/合計				各年4月1日現在		前年度の主な出来事	
	指導者	一般	18~学会費会員	学幼少	合計	大人前年比		
令和元年	118	216	4	338	32	370	新春錬成会3年目	
前年比	-16	▲12	▲24	▲6	▲30	対前年 △6.6%	総本部令和元年度から16歳以上の学生を半額年会費	
平成30年	134	228		362	38	400	新春錬成会2年目	
前年比	-8	▲5	▲155	7	▲148	対前年 △3.5%	山口華雋会長総本部会長職勇退	
平成29年	142	233		517	31	548	再入会キャンペーン効果あり、3年ぶりプラスに一般会員14名の増、学生減 合計5人プラス	
前年比	2	12		16	▲9	7	対前年 +3.9%	山口華雋会長に 華洲未来塾 開催
平成28年	140	221		501	40	541	華洲会50周年記念大会(太閤園)	
前年比	-3	▲20		▲26	12	▲14	対前年 △6.0%	関吟80周年記念大会
平成27年	143	241		527	28	555	会員数が再び3位にランクアップ	
前年比	-7	▲13		123	▲3	120	対前年 △5.0%	山口華雋、12代総本部会長に就任
平成26年	150	254		404	31	435	公益認定披露・新年祝賀会	
前年比	-11	22		11	▲1	10	対前年 +2.8%	奥山紅雋少壮吟詩
平成25年	161	232		393	32	425	華洲会45周年記念大会(太閤園)	
前年比	-2	▲5		▲7	▲3	▲4	対前年 △1.8%	
平成24年	163	237		400	29	429		
前年比	1	▲13		▲12	▲1	▲13	対前年 △2.9%	
平成23年	162	250		412	30	442		
前年比	3	▲16		▲13	6	▲7	対前年 △3.1%	
平成22年	159	266		425	24	449		
前年比	-19	▲21		▲40	1	▲39	対前年 △8.6%	

心ひとつに華洲会の歴史を刻もう
55周年大会〈令和2年11月15日〉に向けて

華洲会事業方針 総会決定

来年は華洲会創立55年を迎える記念すべき年となる。

令和2年11月15日に55周年記念大会の開催が決定した。

新しい時代の幕開けとなる令和元年は、華洲会のみならず

このころ一つにして、前進あるのみだ。本年度は、皆で決めてみんなで守るため、より一層合議制を確立することが重要になる。一人は皆のために実践あるのみ。

1 会員増員

(1) 一人が一人に声かけ

(2) 支部一教場の開設

(3) 退会者の防止

(4) 青年部員の活性化

2 指導者の育成

華洲会には指導資格者が150名を超えている。

この中の、新教場立ち上げ指導者を抽出し、教場立ち上げ要請支援する。

3 青年部員の活性化

十年後の華洲会を考えたとき華洲会を担ってくれるのは青年部です。

青年部を皆で育て益々活発

年二回行う

青年部を皆で育て益々活発

各部の主な事業

・教養指導部

吟力向上及び指導者育成のための研修会。従来の華洲未来塾と併せて実施

・女性部

各部事業に協力

・青年部

友好青年部大会への参加

総本部青年部大会への参加

クリスマスイベント等企画・参加

企画部

組織活性化

会員拡大に繋がる事業

吟詠歌謡研修会

退職者対象キャンペーンの実施

広報部

広報紙「華」発行

令和元年度昇段課題詩 華洲会

Table with columns: 区分, 新教本等, 旧教本, 吟題, 作者. Rows include 初段, 二段, 三段, 四段.

令和元年度昇格課題詩 関西吟詩文化協会

Table with columns: 区分, 新教本等, 旧教本, 吟題, 作者. Rows include 師範代, 準師範, 師範.

華洲会 令和元年度4月1日現在会員数

Table with columns: 支部名, 宗帥, 宗範, 総師範, 高師範, 上師範, 師範, 準師範, 師範代, 一般, 18'学生, 小幼, 合計. Rows list various branches and a total row.

に活動できるよう協力する
4会議は皆で意見を出し合い
皆で決める
情報や問題点を共有化し、
全員で議論を重ね知恵を出し
し合い華洲会の十年後を視野に
一丸となって前進する。

◇ 支部長及び理事(順不同) ◎印は本部役員

令和元年度 華洲会役員

Table listing branch names, qualifications, names, and roles. Includes branches like 四条囀, 楠の里, 四糸楠公, etc.

Table listing positions (e.g., 会長, 常任相談役, 副会長), qualifications, names, and branch names.

◎印は常任理事以上で分会講師を兼ねる各部担当役員

Table listing department heads and members for various departments like 事務局長, 企画部, 女性部, etc.

Table listing the schedule for the 令和元年度 華洲会 関吟総本部等 競吟・研修等行事日程, including dates and event names.

故会主 三浦華洲先生 没後30年 墓参



時、華洲先生のご自宅には詩吟の本や関連の書物が沢山あった事、沢山のお参りがあつた事など思い出のお話をして頂き、ご遺徳が偲ばれました。記念に御寺院様にも入っていただき、記念の写真を撮影いたしました。

会員の広場

梅から桜へ

川西大和支部 北岸 松男
花朝澱江を下る桃花の季節を過ぎ、春風そよぐこの時期に、時ならぬ梅花が咲き誇っている。

新元号「令和」は万葉集管五の梅花の歌の序文「初春の令月にして気淑く風和ぎ・」が典拠とされ、人々は梅が香に希望に満ちた新時代への息吹を感じ取っているのだらう。

御寺院様には「正信偈」の読経を三浦先生の法名「朗吟院釋徳澍」様に手向けて頂くなかで、参拝者一同焼香させて頂きました。※「澍」の偏は「ㇿ」
御寺院様からは、ご葬儀の管理馬「ダノンファンタジー」

号」が一番人気に推されながらも、残念ながら四着に敗れた。

これからも皐月賞、ダービー等G1レースへの出走を予定している有力馬もいるので、今後の活躍を期待している。

いつの間にか傘寿を過ぎたが、吟詠の賜物かまだまだ元気である。西行法師の「花の下にて春死なん・」と詠んだような、涅槃への昇華を望む境地にはまだ達してない。今しばし、桜花詩など吟じながら、散り際の人生を謳歌したいと願っている。

詩吟のこと

京阪樟葉支部 東山 美恵
元来、家族共々歌が苦手だったので、定年後、カラオケ教室に通っていました。友人の詩吟を楽しそうに習っていることに興味を持ち、入会させていただきました。

その後、他の稽古日と重なり、一年余りで辞めてしまいました。

それから十年程経過し、詩吟に興味が出てきて、藤原亮晟先生の教室に入会させていただきました。良い環境に恵まれました。良い環境に恵まれます。入会して二年あまり、吟ずるのはとても難しい

ですが、それぞれの詩の内容に思いをめぐらせて、詩情。風景などを想像しながら練習できるのは、ひとつの楽しみとなりました。後期高齢者となつた今は、詩吟はいろいろな意味で丁度良い趣味となり、教室の先生方々にも恵まれて今度こそ健康で続けたいと思つていきます。どうぞよろしくお願ひします。

私の健康診断

川西豊友支部 門脇 伸夫

私は今年で七十六歳になります。若い頃から暴饮暴食の毎日仕事上です「言い訳です」

六十五歳の時に第一回目の健康診断で大腸検査の結果ポリープ発見、カテーテルにて切除し癌ではないと知らされホッとしました。ポリープの出来やすい大腸といわれ検査は続けて下さいと言われ従うつもりです。

七十歳の時に健康診断で病名が高血圧、腎動脈狭窄、閉塞性動脈硬化症と診断され、医師からこのままですと透析治療になるといわれ、防ぐにはステンド治療行いますそしてカテーテルにて、手術は成功しました。現在持病の喘息を月三回の

詩吟練習で良くなっています。皆様詩吟は一生続けましょう。そして政安先生、吉田支部長、これからも教室をよろしく言願ひします

私の健康法

野崎観音支部 前田 初美

歳とともに声が出にくく、すぐ咳こんで困っていました。そこで出会ったのが詩吟です。「公民館で練習してるから一度来てみない。」と高橋先生に誘って頂いてから早五年過ぎ、少しは上達したかしら？いややまだまだ練習が足りません。早く皆様に追いついて、追い越したいと願っております。

詩吟のこと

青山支部 佐野 節子

青山支部は、楽しく明るいのが特色。これは先生の人柄？ イベントなどには、皆積極的に参加、普段の練習も話はずんで、和気藹々の雰囲気です。

音痴のうえに詩吟は初めてで自信のなかった私、合吟ではそつと小さな声を出していました。そんな私も、この雰囲気にも励まされて、大きな声が出せるように。「これは得意です」と自信を持って言える吟を持ちたいなど、その日をめざして頑張っています。まだまだ道は遠いけれど。

いつの間にか二十年が過ぎようとしていきます。諸先生のご指導と素晴らしい仲間のみなさんに支えられ、これまで吟を続けてこられた事に感謝したいと思います。

シルクロード紀行

清和台支部 森まちな子

天山は天馬の

ふるさと跨りて

駆け行く姑娘風の花嫁

水湛ふる一筋の

川現はれて

熱砂の果の蜃気楼と知る

狼煙台残りて

白き昼の月

杵き駱駝の足音聞こゆ

ウイグルの幼の踊る

民族舞踊

淡き流し目ほのかな色気

カシユガルのナン売る

屋台に寄りてゆき

中より一枚

抜き取りて買う

ウイグルの絵文字の如き

雲流れ

西へ西へと吾も旅人

先生にゆつとくよ、いつでもいいから見に来たら」と心良い返事、早速会に見学に行きました。先輩方の吟に聞きほれすぐ入会しました。しかし、先生から渡された紙には、漢詩がいつばいでした。ええ！こんなん出来るかなあとびつくり、その程度で入会させていただきました事を、昨日の事のように思い出されます。

川西 地域便り 川西北支部 小島 需岳

川西市には十一の会派・流派で結成された「川西詩吟連盟」(会員数二百余名)がありますが、華洲会は、会員数が百人を超える最大派閥となっています。

昨年十二月に、新築された川西キセラホール(観客席千席)のこけら落としとして各種の「郷土文化芸能講演が開催され、川西詩吟連盟は、構成吟「清和源氏の今昔」を上演しました。

準備段階で心配したのは、千席の大ホールはガラガラ状態ではないかということでしたが、会員が事前に整理券を配布して市民に呼びかけを行った結果、当日の一般市民の入場者は千人余りの満席となり、一般の入場者を優先するため、会員は客席から追い出されました。

公演後の評判も上々で「詩吟の迫力に感動した」「ストーリーが簡潔で川西市の古史がよく分かった」「大スクリーンに映像や詩文が映されたので分かり易かった」「孫に詩吟を習わせたい」などの賞賛の声が多く寄せられました。

川西市民の詩吟に対する関心の高さや、詩吟連盟の底力、

私の吟詠パフォーマンス

交野山旗振り大会に小寺竜鵬華洲会副会長が参加

令和元年5月1日。小雨の中、小寺氏は新元号改元記念「交野山旗振り大会」イベントに参加。参加20人に対し、週間に亘り毎朝詩吟の特訓を行ない当日のオオトリで漢詩「交野山の来光」を吟詠披露し、拍手喝采を受けた。吟詠参加者の内女性3人は小寺氏の熱血吟詠指導と、また当日の吟詠での盛り上がりを受け吟詠に興味を示しているとか。小寺氏は「詩吟継続に意欲を見せているので、新規入会が楽しみです」と語った。

交野の旗振り山は、江戸時代中期から明治の初期までの長きにわたり、堂島の米相場を全国に即座に伝える旗振りルートの中で、伏見に伝える旗振り通信の中継点として歴史的文化的に貴重な山であった。

それらは全て華洲会の皆様のご活躍によるものであり二年後に「詩吟連盟五十周年記念講演」が計画されており、益々の活躍が期待されています。

交野市長も参加しており、「令和」の新时代を祝う市民参加の「絶叫旗振り大会」として企画され、その様子はユーチューブ等を通じて広く発信している。吟詠の魅力の一端を世界に発信できたかな？

《取材・竹本瑞鼓》





Casa Blanca

青年部のページ



九頭竜川の桜と詩吟
川西豊友支部 上野敦

福井県と岐阜県の県境にある油坂峠付近に源を発し、大野市・勝山市・永平寺町・福井市・坂井市を経て日本海に注ぐ九頭竜川は、福井県のシンボルでもある一級河川です。
この川には、桜が花を咲



かせる季節と同じ頃に、サクラマス(ヤマメの降海型)が、産卵のために日本海から生まれ故郷を目指していつせいに帰ってきます。サクラマスは、一旦川に入って遡上を始めると、エサをほとんど食べなくなるため、釣りの対象魚としては最も釣りにくい魚の1種で、幻の魚と言われてい

ます。そして、この幻の魚、サクラマスを狙う大勢のアングラードが、毎年夢を求めて日本全国から九頭竜川に訪れています。かくいう私も同じ夢を追い求めるアングラードの一人。今年の仕事の関係で少し出遅れましたが、三月三十一日を初日に延べ六日間通い、幸運にも九頭竜川の幻の桜を手にする事ができました。

さて、この魚を馴染みの釣具店に持ち込み、喜びを報告した時、面白い話を耳にしました。九頭竜川で釣りをしてしていると、どこからか大きな歌声が聞こえてきて、それはどうも詩吟らしい、とのこと。今年、九頭竜川で一度も練習をしていないので私ではありませ

ん。サクラマス釣りとは詩吟を趣味にしている人が私以外にも居ることを知り、驚きとともにとても嬉しい一日になりました。九頭竜川は、全国で最も古くからサクラマス釣りが解禁されている河川で、サクラマスアングラードの聖地と言われています。禁漁期間と釣り開放区間が定められていて、サクラマス釣りができるのは、中流域の限られた区間で、二月一日から五月三十一日までの四ヶ月間です(遊漁券の購入が

必要)。他の河川と比較してひとり回り大きくプロポーションの良い魚が釣れるサクラマスのブランドリバー、九頭竜川に一度訪れてみてはいかがでしょう。

九頭竜川は日本の福井県嶺北地方を流れる一級河川で、サクラマスやアユの漁場として著名です。



広報誌『華』に青年部ページが加わり、2号目になりました。私たち青年部に、是非ご意見・ご感想をお寄せ下さいませ m(_)_m 大会会場で見かけられた際でも構いませんし、各種 SNS でもメッセージやフォロー常時受付中です！お気軽にお願いします！



→@kashu_kai



→華洲会青年部

総本部青年部大会
辛くも成功
俳詠寺川支部
秋月奎翁

関西吟詩創立八十五周年記念大会の完遂・成功に明け暮れた平成三十年。記念大会でのロック吟「誠は天の道なり」の披露も大成功に納まり、青年部一同ホッと一息ついていたころ……。そういえば、何か忘れていないか？あつ、総本部青年部大会が残っていた！日時は？会場は？どうなっているの！？台本・会場の配置など、年明け早々より一気呵成に準備に入った。三月二十三日の前日リハでは、出演予定の青年部員の半数ほどが参加。次第を一つ一つ確認しながら読み合わせる。各自の出番の稽古はそこそこに（苦笑）、あつという間に当日を迎えることとなった……。

当日（三月二十四日）は、大会の成功を祈るかのよう
に快晴に恵まれた。開通したばかりのおおさか東線で四條畷へ。新線開業して間もない車窓からの眺めが目

に新しい。不安と楽しみとが同居しつつ、会場である四條畷市民総合センターに入ると、そこには今回出演の青年部員が全員集合している。皆、色んな思いを抱えながらも、やるからには楽しく成功に結びつけようという一点で結集したのだらうと思うと胸が熱くなった。藤原凜声（総本部青年部長・鷺声吟詠会）が点呼をとり、部員に持ち場を説明・指示。気合い十分で各所持ち場につき、出番を待つことになった。

正午。萩原煌昶（景和会）による開会宣言により幕が開き、続いて上野山月（東京芦孝会）が会歌合吟。巻頭言は、森佳仁（攝友会）が高らかに唱和する。大会一つ目のヤマ場は、アンサンブル・リベルタによるライブ。和楽器・洋楽器・時には日用品を楽器に変身させ、軽妙なトークとともに会場を和やかにアツプデートする。

番組中盤。他流派青年優秀吟者による圧倒的迫力吟詠と、続く津軽三味線奏者「J&J」（鷺声吟詠会）による旅愁に満ちた演奏で、舞台袖の我々もしばし気持ちを

落ち着かせる。我々との実力差はさておき（？）、同じ現役世代の切磋琢磨ぶりにはやはり励みにもなる。

そしてハイライトは、構成吟「源氏物語」だ。今回は『源氏物語』の前半を中心に、作中に関わる漢詩・和歌をちりばめた。山水流舞踊の山水隆宏の緩急自在の舞とともに、青年部員の日頃の成果を存分に発揮する。終了後の客席の感想も上々だったようだ。

いよいよ舞台の最後は、「平成華乱舞」。和楽器バンドの代表曲「千本桜」をモチーフに青年部の主張を盛り込んだアレンジ曲で、会場全体に詩吟愛が満タンに充填されたところで、大会はフィナーレへ――。

今こうして振り返ると、大会としては確かに成功を納めたかに見える。それはもちろん、皆、詩吟が好きだ、という思いが根底にあつてのことではあるが、仕事も家庭も育児も精一杯の中、ギリギリの状態でどうにか続けているというのもまた本音の一つではあろう。実は私事ながら、次期総本部青年部事務局長を拝命す

ることになった。キャリアも何もないのに、務め果せるのか不安もあるが、現在の総本部青年部の身の丈にあつた能力で出来ることは何か、しばらくは模索しながら稽古に臨む日々となりそうだ。（文中敬称略）



新元号「令和」に言よせて

広報部担当副会長

丸の内中央 竹本瑞鼓

昨年、「万葉集」を学ぶ機会があった。地元の高齢者大学文芸学科で16回のコースであった。学びでは、その時代にタイムスリップでき、ロマソンを感じていた。今、新元号の「令和」の公表を受けて、「学んでいてよかった」「親しみがわく」と拍手喝采をしたのである。

想えば、「万葉集」は天皇の御製から貴族・防人など庶民の歌まで4516首が収められており、宮廷祭式など晴れの場で歌われた雑歌から、男女の恋愛を扱った相聞歌、死者を悼む挽歌など様々な題材を含み、短歌、長歌以外にも多様な形式の歌が収録されている。

「令和」の語源は「万葉集」第5巻、梅の花の歌32首并せて序、「初春令月、気淑風和、梅披鏡前之粉、蘭薰珮後之香」の中から採られているとのこと。我々吟詠家は漢詩や和歌を学び、吟詠を楽しみ、人生の糧としているが、今回の改元で、日本の歴史、皇室の歴史、に思いを致すこととなっ

た。

振り返れば、華洲会も平成27年11月に「衆心城を成す」をスローガンに華洲会創立50周年記念大会を開催し、華洲会の歴史にその足跡を刻んだ。華洲会は昭和39年会主故三浦華洲先生が豊中の地において創設された。現在の会員数は昨年度より会員の高齢化などで30名減となったものの、本年4月1日現在、370名の会員を擁し、設立当初より現在に続く関西吟詩文化協会の有力な公認会の一つであります。そして、令和2年11月15日には華洲会創立55周年大会の開催を既に決定し、実行委員会を組織し、その歴史に新たな一步を刻もうとスタートをしております。

歴史は創るもの、刻んでゆくもの、多くの華洲会員が一堂に集まり、それぞれの支部が工夫を凝らし、「佐藤一斎」の言志晩緑の言葉「少くして学べば、則ち壯にして為すことあり。壯にして学べば、則ち老いて衰えず。老いて学べば、則ち死して朽ちず」にあるように、高齢であっても吟詠によって自ら成長し、会員

減少を食い止め、それぞれが主役となり楽しめるような「新しい時代の創造」華洲会55周年大会「であればと願うところ」です。

【漢詩の広場】

寿令和 韻・真 仄起り

男山さくら支部 坂本亮緒

祝慶令和率土濱

頌聲四海達楓晨

天長地久邦家盛

堯雨舜風皇德臻

令和を寿ぐ

祝慶 令和 率土の濱

四海の頌聲 楓晨に達す

天長地久 邦家盛にして

堯雨舜風 皇徳の臻る

【大意】

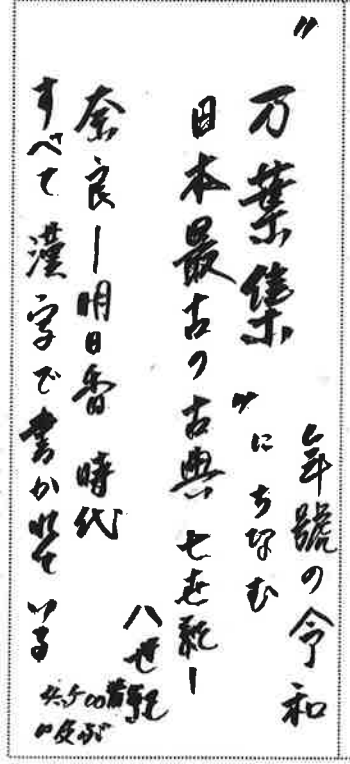
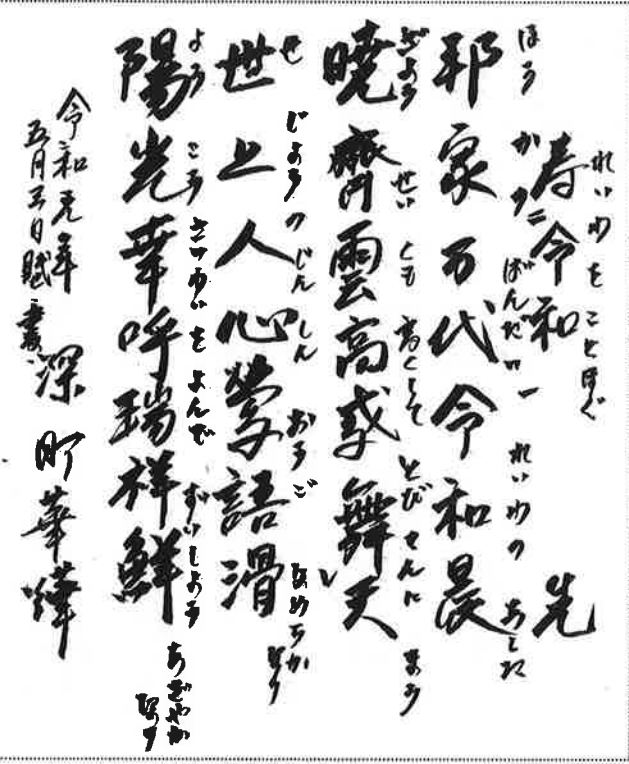
改元令和の祝慶列島隈なくめぐり、世界中の泰平を褒め称える声は宮殿に達す。

日本国の盛徳かがやきは未来永劫にして、太平の世に陛下の慈しみおもしろの御心およぶ

「語句の意味」

率土の濱・日本列島・天下じゆう

頌聲・太平をほめ歌う声
功徳をほめたたえる声
堯雨舜風・太平の世。堯・舜（中国古代の二帝）の仁徳が広く行き渡ったのを、風雨の恵みにたとえた言葉。
皇徳・聖心のいつくしみ思いやり
臻・いたる。及ぶ



【紙面構成について】
天皇のお代替わり受けて令和となりました。総会議案、会員の広場など、気持ちを新たに紙面を編成。6・7ページは次代を担ってくれる青年部の編集です。紙面を埋める新企画、提案募集中。 広報部